

平成24年度エココミュニティ会議交流会

開催日：平成 25 年 3 月 2 日（土） 13 時～

場 所：市民ギャラリー 2 階 講座室

出席者：75 名

【プログラム】

- 1 開会挨拶（西宮市長 河野昌弘）
- 2 EWC 環境パネル展概要説明（説明：NPO 法人子ども環境活動支援協会（以下 LEAF））
- 3 EWC 環境パネル展見学
- 4 意見・情報交換（進行：LEAF 小川雅由 事務局長）
- 5 事務連絡
- 6 閉会挨拶（環境局長 田中厚弘）

【参加者】

エココミュニティ会議関係者	37 名
エココミュニティ会議担当職員	7 名
環境計画推進パートナーシップ会議委員 （NPO 法人子ども環境活動支援協会小川事務局長、田中環境局長除く）	4 名
環境計画評価会議委員 （うち 1 名は委員の付き添い（見学生））	3 名
バーリントン市来賓	3 名
ベトナム（ダナン大学）来賓	1 名
神戸女学院大学 留学生	6 名
その他スタッフ等 （市、LEAF 職員他）	14 名
合 計	75 名

【内 容】

現在市内で活動している 19 地区の各エココミュニティ会議と環境計画推進パートナーシップ会議の委員の情報交換、意見交換の場として開催。

当日は、市長より挨拶いただいた後、「わが町・西宮と地球の環境に関すること」をテーマに、平成 24 年度で 20 回目を迎えた「EWC 環境パネル展」の説明を聞き、見学しました。

その後、7 グループに分かれて、各地区の活動について情報交換をし、地域での活動でうまくいったこと（やってよかったこと）、うまくいかなかったことについて意見交換をしました。各委員からエココミュニティ会議の活動に対しての意見や提案もあり、最後に各グループで出た意見を発表をしました。発表後にはバーリントン市とベトナム（ダナン大学）の来賓の方よ

りそれぞれ講評をいただきました。

市長挨拶



EWC 環境パネル展説明



EWC 環境パネル展見学

平成 24 年度は、昆虫や植物を観察したことをまとめた作品など、さまざまな作品が出展されました。

(市内学校や一般市民から 498 点、海外から 148 点の作品を展示しました。)



意見・情報交換

7グループに分かれ、まず、各地域での活動紹介をし、その後活動を行う上で「やってよかったこと」や「うまくいかなかったこと」について意見交換をおこないました。

また、意見交換の中では環境計画推進パートナーシップ会議、環境計画評価会議の委員のうち4名からエココミュニティ会議の活動に関して協力できることなどをご提案いただき、その後各グループで出た意見について発表をおこないました。



意見・情報交換の様子



発表の様子



各グループの発表の後に、LEAF 小川事務局長より、「活動を行うにあたり人材確保など様々な課題があると思いますが、エココミュニティ会議の活動は全国的に見ても非常に先進的な活動です。難しいかもしれませんが、そのことに自身をもって頑張ってください」とまとめのコメントをいただきました。

また、バーリントン市（アメリカ）とダナン大学（ベトナム）からの来賓の方々にも交流会を見学した感想をいただき、最後は田中環境局長の挨拶で締めくくられました。

各班で出た意見（箇条書き）や、各委員の意見、来賓の方々の感想は次のとおりです。

各班で出た意見

グループ	よかったこと	うまくいかなかったこと
A	活動テーマの定着 小学生のエコカード 中学生の市民カード 地域団体との協力 地域での環境作品展の開催	活動費のやりくり 広報 メンバー集め 中学生への市民活動カードの啓発 活動テーマの設定
B	小・中学生の参加が多い 夏休み小学生 自然教室(県民バス) 家族をまき込んだ取り組み 花だん作りが他団体との交流になる	市の補助金の額と使い道 エコ活動に対しての先生、保護者の意識が低い 次の活動をどうするか 地域の高齢化(地域に小学生2人しかいない)
C	会議が短い、楽しい 他団体と協働で活動 身近な問題を取りあげる	エコミ本来の姿が見えない 各種団体役員が兼務 行動力不足

	水質改善、自然保護活動 エコ料理教室	会議の欠席者が多い エコミの単独事業がない
D	学校との連携 地域と他団体、企業との連携 小・中学生の活動参加 メンバー間の役割分担が明確。コミュニケーションがうまくいっている	地域住民、団体を参加、協力 PR 活動(人材、若年層の協力) 活動への評価 取り組みに対する評価
E	親子で行事に楽しく参加できている 活動を通じて、横(人)とのつながりが生まれた 各種団体の行事に協賛し多くの参加を得た(地域) 活動を通じ、多くの学びがあった(子ども達から…世代間で) 地域の歴史などを学ぶことができた	行事の日程調整に苦労した 参加希望者の全てが参加できない 行事の申込者が少ない 市民活動カードの関心が低い エコミが地域に認知されておらず、役員が固定化し、活動時のサポーターが集まらない
F	地域の資源(河川や山など)、環境を活かした活動は (マル) 小中学生など、子どもをまきこんだ活動は (マル) 既存の活動団体・専門家をまきこんだ活動は (マル)	地域内での活動の普及、啓発。「広げていけるか？」 活動の担い手づくり 会議、メンバーの形・協力者の確保 学校との協力・連携
G	震災・防災関連の行事、見学会など コバノミツバツツジ保全活動が市民の活動が(に?) 広がった(大社エコミが発信中心に) お隣のエコミとの交流会、共催事業、協力もできた 廃屋を撤去して“みんなの花だん”(夙川のり面)を作った(神原エコミ)。行政・住民との連携 腐葉土作りが広まった(学校園、地域住民、公園に配った)	エコ活動をするために自然をこわしている場合がある(花壇作り、ペットボトル) 学校園との連携が難しい(パネル展出演、中学校エコカード) 地域住民への広報、PR が難しい 委員会のメンバーが集まりにくい 市民活動カードの定着が難しい

委員からの意見 (順不同)

所属	発言者	内容
パートナーシップ会議	遠藤氏	神戸女学院大学に勤めています。今、大学でも地域と連携できる場を求めています。地域からこういうことをやってくれないかということをお願いいただければ、学生のいい学びになりますし、逆に地域にも貢献していけるのではないかと、思っています。

	野村氏	金田運輸株式会社の代表取締役をしています。当社は市内小・中学校 61 校の給食を配っており、今年で 60 年を迎えます。エココミュニティ会議の皆さんのご依頼があれば、社内の見学などをしていただけます。ぜひ、子どもたちの給食がどのように配送されているのか、ご覧ください。
	野田氏	各グループとも『うまいかなかったこと』を挙げられていると思います。これは発想の逆転ですが、この『うまいかなかったこと』は今後活動がよりよくなるための手がかりでもあるわけです。今日の意見交換で出たことを手がかりに、それぞれの地域でより充実した活動をしていただきたいと思います。
評価会議	添田氏	私は LEAF の理事もしているのですが、そこでは語り部活動をしています。皆さんから依頼を受ければ、我々語り部は喜んでおうかがいします。また、我々語り部よりも地域の皆さんの方がお詳しいときもありますので、我々も勉強させていただきたいと思っております。ぜひ、語り部をご活用ください。

来賓の感想

所属	感想(自分たちの国の取り組みについて)
バーリントン市	<p>皆さんと同じようなことをアメリカのバーモント州バーリントン市でも行っています。また、私立、公立の学校の生徒とも活動しており、活動に子どもたちが参加すると学校の単位になるという制度もあるのです。</p> <p>それぞれの会議がどういう課題をもってどんな活動をしているのかをお互いに情報交換、意見交換するために、インターネットのサイトを通じて紹介しあっています。また、年に1度、レガシープロジェクトという合同会議を設け、それぞれの活動を紹介しあう、今日と同じような意見交換会をしています。</p> <p>今取り組んでいることは、子どもたちを市民活動にまきこんでいく、子どもたちを会議にメンバーの一人として招いて、たとえば投票するときには同じ一票を与えて、小学生から大学生までの若い世代をこのようなコミュニティ活動にまきこんでいく、ということです。それを一生懸命しています。</p>
ダナン大学 (ベトナム)	<p>本日、参加して三点、勉強になった点があります。それは、エココミュニティ会議の概念とか明確にしないといけないこと、活動を多様化しなければならないこと、みんなが参加できるようにできるようにすることです。</p> <p>ちなみに、ベトナムでは食べ物は残るように作らないといけません。残った食べ物は集めて、豚のえさにしています。それによって、残ったものもリサイクルになると子どもたちに教えています。</p>